

【様式】

学 校 教 育 目 標	進んで学び 高め合う 北小の子
目 指 す 学 校 像	「教育は人なり」をモットーに、伝統と創造・新たな時代の創り手となる若い力を育てる学校～ Well - being 一人ひとりが幸せになる～
重 点 目 標	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業の改善（学びの質の向上） 2 夢に向かって努力する豊かな心と健やかな体の育成（発達や心のサポートの推進） 3 協働・連携による潤いのあるコミュニティ・スクールの発展（家庭・地域とともにある学校づくり） 4 安心・安全を守る学校管理の徹底（教育環境の整備と充実） 5 新たな教職員の学びの姿や働き方改革マスタープランの具現化（教職員のキャリア形成の構築）

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○ICTの機器の活用度は高まった。効果的に活用ができたという教職員も昨年度 78%となり、様々なアプリを授業で活用できた。新しいアプリの導入にも適用していくようにする。 ○全国及び市の学習状況調査の結果から、全体的に学力は高いと言える。また、「話し合い活動が好き」と答えた児童が昨年度 85%に達した。 <課題> ○SSSPの運用が定着できるよう、活用し、その有用性を児童把握、授業改善に活かす。 ○個別最適な学びと協働的な学びを関連付けた授業展開を研究し、実践的な取組を行う。	・SSSPの効果的な活用と新しい教育アプリの活用による授業改善	①校内でSSSPに関わる研修を充実させる。 ②新しいクラウド環境を有効活用した教育活動の実践に取り組む。	①校内でSSSPを活用できているか。 ②授業の中で、新しいアプリを活用した授業実践を行えているか。児童が新しいICT機器を活用した活動の実践を行ったか。					
		・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創出	①児童が自ら考え、協働的に学ぶことができる資質・能力を育成する全教職員が授業を実践する。 ②授業及び学校行事における主体的かつ協働的な活動と振り返りの時間を充実させる。話し合い活動の工夫により学び合いの力を付ける。	①「学校は、分かりやすい授業を行い、個に応じた学習指導の充実に努めている」の肯定的な評価が84%以上になったか。 ②「話し合い学習が楽しい」と回答する児童が85%以上を維持できているか。					
2	<現状> ○学校自己評価に係るアンケートで「より良い世の中を作っていきたい」と回答する児童が 91%となり、発達段階に応じた心を潤す行事や取組の成果が上がった。 ○児童理解研修、ミーティング、ケース会議、SC、SSW 等との連携による保護者面談等により、組織的な教育相談体制が向上した。 <課題> ○不登校の悩みを抱える児童への支援が必要である。個々の児童が自信をもち、よりよい行動を沢山できるよう、温かい気持ちを育む教育環境の構築が必要である。	・特別活動の充実と児童自ら取り組む場の設定	①児童が立案実行可能な企画を設定し、児童に達成感を味わわせる。 ②児童の活躍の賞賛や価値付けを明確に提示する機会を設ける。	①学校自己評価に係るアンケートで自己肯定感が高い児童が90%以上になったか。 ②朝会、掲示等様々な機会により活躍を紹介できたか。					
		・教育相談体制や生徒指導体制等、組織力強化	①チーム学校として、全教職員が児童の情報を共有し、児童の成長を複数の目で観察し、多面的に支援・評価する。 ②Solaの一むを始め、個の特徴に応じた対応ができる手立てや場所等、一人ひとりを大事にできる方策を構築する。	①児童把握や児童理解、相談等に係る教育相談体制が強化できたか。 ②チーム学校として、教職員の知恵と人材を活用し、方策を構築できたか。					
3	<現状> ○学校運営協議会による熟議により「防災教育」というテーマが決定した。 ○創立80周年を迎え、記念事業を展開する。 ○学校HPは保護者の閲覧が増え、好評である。また、スクリレの配信による情報周知が大変円滑になり、有用性が高まった。 <課題> ○創立80周年の記念事業を通して、児童の主体性が高まる教育活動や保護者と地域とコミットした教育活動を発展的な視野を持って実施し、協働の意識を高める。	・家庭・地域とともにある北浦和小ネットワークの構築	①学校運営協議会に代表児童が参加し、ともにコミュニティ・スクールを発展させるという意識を高める。 ②「防災教育」というテーマの実現のため、学校・家庭・地域が創り手である意識を高める。	①学校自己評価に係るアンケートで「学校運営協議会の活動が分かる」と回答する保護者が80%以上になったか。 ②「防災教育」というテーマの実現のため取組が実施できたか。					
		・教育活動の公開やHPの充実による学校発信の推進	①学校行事を計画的かつ適切に公開し、公開の良さを検証する。 ②学校HPのさらなる充実とブログの更新を行う。 ③創立80周年記念事業実行委員会の指揮の下、記念事業を実施する。	①学校自己評価に係るアンケートで「教育活動を積極的に公開している」と回答する保護者が80%以上を維持できたか。 ②学校HPの更新が適切か。 ③創立80周年事業が実施できたか。					
4	<現状> ○教室数不足や施設の老朽化を改善することは難儀するが、ふれあい花植えや校内外整備等、教育環境づくりの工夫を構築している。 <課題> ○児童数変動の状況に応じた教育環境の対応のため、柔軟な教育活動内容をマネジメントする。	・児童の心に潤いを与える教育環境の整備	①教育環境のユニバーサルデザインの構築を進め、緑化、掲示、整理整頓、整備等、安心できる環境をつくる。	①ふれあい花植え、教育環境整備を始め心が潤う環境が充実できたか。					
		・安全・安心な学校の実現に向けた土台の強化	①安全に学校生活を送ることが出来るように施設設備の安全点検を徹底する。 ②持続可能な取組の実現のため、PDCAサイクルに則り、評価改善を行う。	①危機管理体制ができたか。 ②迅速な対応ができる組織力があるか。 ③日々の安全点検はできたか。 ④緊急度が高い案件の解決ができたか。					
5	<現状> ○教職員が協働できるチームである。 ○中・高学年の教科担任制、会議の簡略化、Teamsの活用等、働き方改革をさらに発展させる。 ○学校課題研修は研究発表を実施する集大成の年度である。 <課題> ○個に応じた指導や支援に工夫を凝らし、誰一人として取り残さないという教職員に強い意志を育成し、温かい教育を推進する。 ○働き方改革マスタープランを踏まえる。	・教員の指導力向上に向けての研修の実施	①教職員が主体的に研修ができる時間を確保し、資質向上を図る。 ②教職員の「キャリアNavi」を活用し、自己研鑽のテーマにも取り組む。	①教職員の資質向上のため、一人ひとりが主体的に授業実践ができたか。 ②ICT活用を含めて自己研鑽を進め、実践に活かせたか。					
		・教職員のアイディアを生かした働き方改革の推進	①質の高い教育課程の指導が進められるように、カリキュラム・マネジメントを推進する。 ②割振り変更やノー残業デーの周知等により時間外在校時間の縮減を図る。	①カリキュラム・マネジメントによる授業時数の見直しができたか。 ②働き方改革マスタープランに基づき、時間外在校等時間に関する目標75%になったか。					

